

第3回 仙北市角館地域審議会会議録

一、開催年月日 平成18年7月28日(金) 午後2時

一、開催場所 仙北市角館西側庁舎2階 第4会議室

一、会議に出席した委員

会 長	佐藤勇太郎
副会長	経徳 紘一
委 員	柏谷圭一郎
〃	草薙 稔
〃	中村 清悦
〃	相馬 正男
〃	山本 陽一
〃	藤枝智恵子
〃	青柳 良信
〃	堺 研太郎
〃	藤原 達朗

一、会議に欠席した委員

委 員	茂木千代太郎
〃	千葉 一明
〃	黒澤 美鈴
〃	三杉真紀子

一、会議に出席した職員

助役	東海林文和
角館地域センター長	柳原 昭市
総務部次長	田口 威徳
企画政策課長	倉橋 典夫
企画政策課参事	藤村 好正
地域振興課長	小木田 隆
総合窓口課長	藤川 実

一、会議次第

1. 開 会

2. 会長あいさつ

3. 諸連絡

4. 議 事

(1) 仙北総合計画について

5. 意見交換

6. その他

7. 閉 会

一、会議録

○藤川総合窓口課長の司会により午後2時開会。

○次に佐藤会長より「会議の開催期日について、次回は全員が出席できる日程にしたい。審議会の次のステップになるような会議にするため、皆さんの忌憚のないご意見をお願いしたい。」とのあいさつがありました。

○議事進行は会長が行い、次に、倉橋企画政策課長より議事（1）仙北総合計画について、資料に基づき詳しく説明がありました。

（説明の要約）9月定例議会に向けて、策定を進めている。アンケート結果、審議会の意見、内部での検討を行い、基本計画を策定したい。基本計画の構成は、第1編序論、第2編基本構想、第3編基本計画からなり、基本となるまちづくりの計画で平成18年から27年までの10年間の計画である。委員の皆さんからは第2編、第5章地区別の目指すべき方向、角館地区についてご意見をお伺いしたい。本日は諮問という形式をとらせていただいたのでよろしくお願ひしたい。

○次に、議事（1）に対する質疑の時間となり、各委員から総合計画についての質問、感想、意見が発言されました。

意 この計画通り実施されれば希望が持てる仙北市になると感じた。

角館地区でも農業と観光、グリーンツーリズム等農業で活躍している。また住みやすい自然環境がある。角館地区へはもとより仙北市の農業の現状や振興、自然景観の保全等を具体的に盛り込むべきではないか。（藤枝委員）

意 総合的には良く出来ている計画であると思う。

将来人口について記載されているが、まったく危機感が感じられない状態である。人口減少に対して実効性のある対策を打ち出し、盛り込むことが必要ではないか。

テンミリオン計画について、観光客数の正確な数値を冷静に把握し、それを基に計画しなければならないと思う。旧町村の観光客数を積み上げるのではなく、旧町村の垣根を取り払い、もう一歩先へ本当の計画を作らなければならない。（堺委員）

- 意 団塊の世代を活用し、社会教育の充実に努めてもらいたい。
男女共同参画の推進については、さらに深くにつめていかなければならないのではないか。
農業についてしっかり盛り込んでもらいたい。(草薙委員)
- 意 すぐに効果が現れることを求めるが、一番効果があるのは人づくりである。
お金がなくてもしなければならぬ。人づくりが大切である。(佐藤会長)
- 意 アンケートからも雇用の場がないことが分かる。農業政策の変更により更に都会へ出る若者が増え、人口が減少すると考えられる。目先のことばかりではなく、若者が定住できる環境を整える等、市全体で頑張らなければならない。雇用確保をしっかりしてもらいたい。(山本委員)
- 意 この地区は兼業農家が大半である。雇用の確保、安定した農業、見捨てられることのないような農業政策が必要である。農業の補助事業について農業者以外の人をまきこむ事業を充実させてもらいたい。(青柳委員)
- 意 計画を読んで明るい未来あるようだが、若い世代に閉塞感がある。20代、30代に元気がない。これを日頃感じている。仕事があれば解決するか分からないが、笑顔でいられる場所があれば変わるのかなと思っている。どのように進めばよいのか解決するためには遠い気がする。(藤原委員)
- 意 この計画は目標で、これから具体的になると思う。武家屋敷通りの店舗を少なくしてもらいたい。武家屋敷が商店街になっては困る。(柏谷委員)
- 意 計画は立派であるが、現実的、今すぐ出来ることも必要。諮問機関であれば、この意見等をどのように施策へ反映させていくか考えていかなければならない。農業が良くなると町も良くなる。農業政策が角館地区に何も無いのはおかしい。(中村委員)
- 意 行政におんぶにだっこで、自分たちが何をやってきたのか。農家なのに農業ができる子供がいない。地域や自分たちが出来ることは何か考え、地域間で交流することが大切。国体関連の工事が終われば仕事もなくなる。桜並木もいつまで続くか分からない。目先だけでなく5年先、10年先をどう考えるのか。皆で考え、模索していかなければならない。(相馬委員)

意 すばらしい計画だが、具体性がない。農業と観光、目線を合わせていかな
いといけない。観光は桜まつりのみならず、通年観光の対策が必要である。

人口減少については、若者の定住も大切だが、団塊の世代にアピールし受
け入れてもらう施策も必要であり、子供、孫など交流人口も増える。癒され
る地域づくりが必要。(副会長)

意 自立町村は地域の活性化、人づくりに一生懸命努力している。

各種委員を活用しながら社会教育を充実していかなければならない。(草薨
委員)

意 自立町村が人づくりに力を入れていることは、お金ではない、本質論に変
わった。人づくり、やる気を喚起するのは行政である。この計画は、以前と
同じ作り方。地域だけを考えるのではなく仙北市全体の考えると受け止めた
い。市民の一体感を作ることが一番大切であり、意識の一体感が必要である。
それが人づくり、社会教育の充実へつながる。

各地区の中心の周りをどう考えていくのか、角館は観光だけではないとい
うことを分かってもらいたい。地域間のつながりがいい。(佐藤会長)

意 合併してから年間約600人のペースで人口が減少している。非常事態宣
言等を出し、人口減少への対策が必要である。(堺委員)

意 仙北市だけでなく、県全体の問題でもある。(柏谷委員)

意 人口減少に対する特効薬はない。人口減少に対する計画に危機感が感じら
れない。人がいることが計画の基本、人がいてはじめて地域になる。(佐藤会
長)

意 武家屋敷の景観はすばらしい、商売の仕方等、景観を残してもらいたい。
(藤枝委員)

問 角館の観光は大切だが、合併したのだから合併したところの観光をどう融
合させていくのが大切。しかし地区が分かれていて融合が見られない。観
光資源の有機的な施策はどこにあるのか。(佐藤会長)

答 具体的なことはまだ決まっていない。地区に限定しない表現が必要である
と感じた。前文等に3地区の融和を設けたい。(倉橋企画政策課長)

意 農産物の販売は、旧町村のブランドで行っている。仙北市のブランドの確立と、自由にだれでも販売できる施設、道の駅など整備が必要。(塚委員)

意 旧町村のブランドと新市のブランドの二本立てが良いのではないか。ブランドの宣伝が必要。基本は市民活動だか、行政も支援する体制が必要である。(佐藤会長)

意 現状と課題が良く作られている。(草薨委員)

意 皆さんの意見を取り入れるところは入れていきたい。人口減少は重要な問題。少子化は各施策を組み合わせる対策になるのではないか。農業、雇用、人づくりの部分についてどのような対策ができるのかまとめていきたい。(東海林助役)

意 都会では景気が良くなっているようだが、こちらは倒産、米価の下落等、ますます苦しくなっている。都会と地方の経済の違いを認識して進めていかなければならない。角館高校、角館南高校をはじめとした教育の具体的な対策も必要である。(青柳委員)

○議事(1)に対する発言が終わり、佐藤会長から、本会議録をもって答申にしたいとの提案があり、委員から異議はありませんでした。また、議事録を作成し各委員に配布するとともに、次回会議の日程は早めに決定してもらいたいとの要望がありました。

次回は10月頃を予定しているのでよろしくお願いいたします。との連絡があり、午後4時16分閉会いたしました。